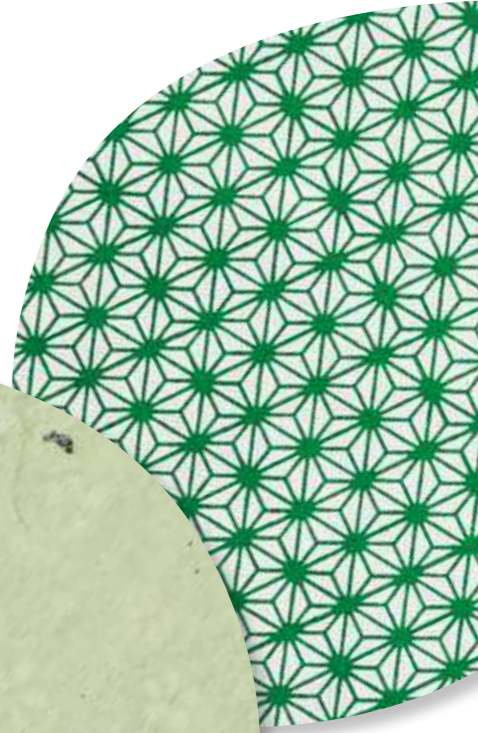


# 全佛婦

No. 139

2024年夏号

7月10日発行



公益社団法人  
全日本仏教婦人連盟

## 全佛婦139号

令和6年7月10日 発行日

編集委員 編集人

花岡真理子 発行人

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電話

<http://jbwf.jp> URL

[info@jbwf.jp](mailto:info@jbwf.jp) MAIL

本多良之師 表紙画

# 和のご精神を 世界へ

総本山 四天王寺 管長 瀧藤尊淳

# そして未来へ

全日本仏教婦人連盟の皆様におかれましては、昭和二十九年の創設以来、仏教を礎とした社会への幅広い貢献を継続されておられますこと、心から敬意を表します。

四天王寺は、西暦五百九十三年（推古天皇元年）に聖徳太子により創建された寺院でございます。当時の我が国はまさに「内憂外患」、豪族同士の争いが続き、役人の不正は日常化しておりました。豪族以外の国民は疲弊

しきった状態で、外交面では大国である中国、当時の隋をはじめ近隣諸国の脅威にさらされる時代です。そのような中で聖徳太子は、叔母にあたる推古天皇より摂政への就任を依頼されます。

当時の太子はまだ二十歳です。摂政という大役への就任には相当悩まれたと想像できますが、この国の悲惨な状況の中で、つらい思いをしている人々、病気や飢えなどに苦しむ

るように、「五重塔・金堂・講堂」を南北一直線に配した『四天王寺様式』と呼ばれる伽藍配置が採用されたと言われています。

また、四天王寺の伽藍は、長い歴史の中で何度も天災や戦火などにより焼失しております。特にあたり一帯が戦場となった戦国時代の大坂冬の陣（西暦千六百十四年・慶長十九年）では、全山跡形もなく焼け落ちました。近年では、第二次世界大戦の大坂空襲（昭和二十年）で、境内の南半分建物が灰燼と化しました。現在の伽藍は南北二つのエリアに分けられ、北側は大坂の陣の後に、徳川家の庇護のもと元和年間に再興されたお堂も含め、五智光院や六時堂など江戸時代のお堂が残っているエリアで、南側は五重塔や金堂など、大坂空襲によって焼失した後昭和三十年代以降に復興したエリアです。

これだけ何度も罹災していると「四天王寺跡」という石碑だけになっていたやもしれませんが、その都度、四天王寺は再建・復興されてきました。現在の伽藍は七回目の再建となりましたが、これほど再建を繰り返した寺院は他に類を見ないのではないのでしょうか。ちなみに、五重塔は昭和九年の室戸台風で倒壊していることから八回目の再建となり、七転び八起きの縁起の良い塔としてお参りされております。



生年月日 昭和27年3月16日  
寺 院 和宗総本山四天王寺

## 瀧藤尊淳

四天王寺が被災する度に、同じ場所と同じ様式で再建され、千四百年もの長い歴史を乗り越えてきたのは、ひとえに聖徳太子への信仰のお陰であり、聖徳太子の教えが、いつの時代にあっても必要とされた証です。また、当山は常に民衆と密接につながっていたことが、今日まで存在する大きな理由であると考えますが、言い換えれば、太子信仰、特に和の精神は、日本人のDNAの一部であると言っても過言ではないと思います。さて、最後になりましたが、全日本仏教婦人連盟の皆様は、み仏の教えに基づき、女性

人たちの立場になって考えた末、やむにやまれぬ思いで摂政の地位に就かれたのでしょうか。そして仏教を我が国に取り入れ、仏教の教えを基盤とした統治国家の確立を目指されます。

太子は、四天王寺を創建されるにあたり、四箇院（敬田院・療病院・施薬院・悲田院）という制度を設けられました。それは、仏の教えを弘める敬田院、病を治療する療病院、薬を授ける施薬院、社会的弱者を救済する悲田院です。敬田院は寺院そのものですが、その北側に施薬院・療病院・悲田院を並べて建てられたといわれています。今で言うところの、教育事業・医療事業・社会福祉事業の施設です。現在、四天王寺が学校・病院・福祉事業を行っておりますのは、創建から今日に至るまでの千四百年の間、四箇院の精神を継承しているからです。

さらに、四箇院の一つ敬田院の根本道場として建立された四天王寺には、大陸からの使者を迎え入れる迎賓館的な役割もございました。当時は四天王寺の西側、現在の新世界のあたりまでが海で、大陸からの使者は、関門海峡から瀬戸内の海を通って、四天王寺の西にあった難波の港から我が国に上陸していました。瀬戸内から東に向かう船団から、真正面の陸地に壮大な伽藍が横に並んで一望できる立場から世界中の人々の幸せのために人材育成や社会福祉に取り組んでおられます。その精神はまさに、太子の四箇院の精神、慈悲共生の教えにはかならないと考えるところです。自然災害、紛争、飢餓をはじめ様々な問題に苦しむ人々が多くおられる中で、私どもは仏教に携わる者として、皆様と共に太子の和の精神を世界へ・未来へ発信継承してまいりたいと存じます。

皆様のご健勝と一層のご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

合掌

### 略 歴

- 昭和35年11月 得度授戒
- 昭和49年7月 比叡山無動寺谷にて加行
- 昭和51年3月 比叡山にて北嶺百日回峰行
- 平成2年3月 四天王寺支院 真光院住職
- 平成13年4月 四天王寺 執事（責任役員）
- 平成25年4月 四天王寺 総務部長
- 令和4年4月 四天王寺 執事長
- 令和5年4月 和宗 宗務総長
- 令和4年4月 四天王寺 副管長
- 令和5年4月 四天王寺 第114世管長

### その他役職

- 天王寺区仏教会 名誉会長
- 天王寺区更生保護協力会 会長
- 天王寺舞楽協会 理事長
- 大阪市仏教会 顧問
- 公益財団法人 関西みらい教育文化財団 理事

# 聞

今こころを

お経

どこへ行くこうと

するのか

愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長

青山俊董 老師



青山俊董◎あおやましゅんどう

昭和8年、愛知県一宮市に生まれる。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長に。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。昭和54、62年、東西靈性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。昭和46、57年、平成23年インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。昭和59年、平成9、17年に訪米。アメリカ各地を巡回布教する。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。  
平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺(博多)僧堂師家。

## 第1講

# 「お経は今、どころは脚下」あしもと

一休さんにこんなお話があります。

金持ちのご主人が亡くなった。一休さんが、お通夜を頼まれ、枕経に行った。一休禅師、亡くなったご主人の枕元に端然とお座りになったまま、いつまで経ってもお経を始められない。かしまつて後ろでお参りをしている人たちが、しびれを切らして、「一休さま、いつになったらお経を始めてくれるだろう」とぼそぼそ言いました。

一休さんはみんなの方を向いて、「亡くなったご主人が一生涯愛用していた金づちを持ってきてくれ」とおっしゃった。

「一隅を照らすもの、これ国宝」という伝教大師のお言葉からとった会の名前だろうと思います。元NHKの金光アナウンサー方が中心になっての勉強会。その会に頼まれてお話に行きました。

お話が終わったところで、質問の手が挙がりました。「お経は死んだ人に読むものか。自分の脚下あしもとに向かって読むものか」いい質問ですね。もうみなさんはここまでお読みいただいているのでわかりだと思えます。自分の人生を柵さくにあげて、向こうを向いて読むのがお経ではありません。

たった一度の命、今こころをどう生きるか。お経に導かれ、照らされて、教えに導かれ、照らされて、生きる。その生き方をめぐらし手向たむかけて、亡き人への回向えんこうとする。それが回向でなければならぬのです。死んでからでは遅い。聞く耳が

お通夜のお経を読むのになんて金づちがあるんだろうと思っただけでも、禅師さまが持つてこいとおっしゃることですから、亡くなったご主人が生涯愛用していた金づちを持つてきてさしあげた。禅師さまはその金づちを受け取るや否や、亡くなったご主人の頭をポカッと叩いたのです。みんな、びっくり仰天しまして、「いくら禅師さまでも、亡くなった主人の頭を叩くという法はない」と怒りました。

禅師さまはお尋ねになった。「亡くなった主人は、わたしに頭を叩かれて、痛いと思したか」ご返事ができませんね。一休さんはおっしゃった。

あり、聞いて実践する身体があるうちに、一刻も早く聞き、今こころでそれを実践する。それをめぐらして亡き人への回向とする。それがほんとうの回向なんですよ。

供養では、「五供養」という言葉があります。五つの供養。まず、お線香などの御香ですね。それからお灯明、お花、飲み物、食べ物。この五つを「五供養」と申します。これも心がけなければできませんけれども、お釈迦さまは、もっと大事な供養として、「よき生き方をせよ」とおっしゃっています。

みなさんは、自分が、供養される側にまわったときのことを考えてみてください。後に残ったものがいい加減な生き方をされたら、心配で化けて出てこなければなりませんね(笑)。

たった一度の命の今を最高に生きる、「よくやってくれている」と、亡き人が安心して向こうの旅が続けられるような、後に残った者の

「仏の教えというものは、生きていくうちに聞くもんじゃ。一生涯愛用していた金づちで自分の頭を叩かれても、痛いとも言えなくなっだからでは遅いのじゃ！」

そうおっしゃって、お経も読まないで帰って行かれた、という話が伝わっております。

なんとなく、お経というものは自分の人生を柵さくにあげて、向こうを向いて読むような錯覚に陥っておりますまいか。そうではない。たった一度の命をどう生きるかを説いたのがお経です。わが脚下あしもとに向かって読むものなのです。

だいぶ前のことです。東京に「一隅会いちぐくかい」という会がありまして、

生き方をする。その最高の生き方を説いたものがお釈迦さまの教えです。

限りなく「ときは今、ところは脚下」と、一步一步を心して歩む。人生の今には、いろいろあるに決まっている。その今を、教えに導かれながら、刻々に闇を光へと転じ、あるいは鬼を出さずに仏を出してゆく。

そのことをめぐらして亡き人への供養とする。その最高の生き方を説いてあるのが、ほかならぬ仏の教えなのだ、そのように受け止めていただきたいと思います。

では、一体、何を説かれたかという具体的なお話としては、あと四回にわたってお話ししてまいります。第一講は、その序のようなお話として、お許しただけがあればありがたいと思います。

(第一講了)

# MONJU FUGEN BOSATSU

「ほとけさまのサイン」

編集・発行 天台宗出版室

浦井正明師：「阿弥陀さまはなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖いお顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。(中略) 仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願い、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

著者略歴

【浦井正明(うらいしょうみょう)】

昭和12年東京生まれ。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

図2



図1

大仏師 山高龍雲作

ほとけ  
さまの  
サイン  
Sign

## 文殊菩薩さまの聖地

文殊菩薩さまは、お釈迦さまと同じインドの国に、バラモン(僧職)の子として生まれた実在の人物だといわれ、修行を積んで菩薩さまの域まで達したと考えられています。前にも述べたように、この菩薩さまは普通獅子に乗っておられ、こうした騎獅子の文殊さまは、もともと文殊さまの聖地といわれている中国山西省の五台山で生まれられたお姿なので、一般に「五台山文殊」とお呼びしています。

実は、『華嚴経』というお経の中には、文殊菩薩さまが清涼山というところで説法しておられると説かれていて、そのお山が五台山だと考えられたのです。

そうしたことから、すでに平安時代に、天台宗の慈覚大師円仁さま、成尋さま、それに真言宗の奝然さまなどが、はるばる海を渡って五台山におまいりされています。

特に円仁さまは、元の駐日大使ライシャワー博士の研究で有名になった『入唐求法巡礼行記』という旅行記の中で、この聖地に詣でたときの様子を書き留めておられます。

## 普賢菩薩さまと女性

ところで、インドで生まれた仏教では、最初は女性は男性に比べて煩惱が深く、簡単には成仏できないとされていました。

この考えを排して、はじめて女性に成仏への道を開いたのは、天台宗のもっとも大切は経典である『法華経』なのです。

そして、普賢菩薩さまは、その法華経にご縁のある人を必ず守ってあげると約束して下さったのです。

こうしたわけで、普賢菩薩さまは、特に女性の厚い信仰をあつめたのです。

中でも、平安時代には、貴族文化の下で、優れた普賢菩薩さまのお像が造られたり画かれたりしました。

## 海を渡る文殊さま

さて、円仁さまなどによってわが国に伝えられた騎獅子の文殊さまの中でも、ちょっと変わった文殊さまがおられます。

それは一般に「渡海文殊」とお呼びしているお像で、騎獅子の文殊さまが、四人の従者を伴って、雲に乗って海を渡って行かれるお姿の像です。

その四人の従者とは、インドの優填王、バラモン僧の仏陀波利三蔵、最勝老人、そして善財童子の四人です。

ところで、皆さんは善財という名前を聞いて、何か思い当たることがないでしょうか。

実は、皆さんがよくごぞんじの弥次さん、喜多さんの滑稽な旅物語として知られている十返舎一九の『東海道中膝栗毛』の東海道五十三次は、この善財童子と深い関係があるのです。

というのは、『華嚴経』の中に、この童子が、文殊菩薩さまの導きによって、発心(仏道を求める心をおこすこと)として、五十三人の善知識を訪ねるといふ話があって、その五十三人の優れた人生の指導者のそれぞれ

## 普賢延命菩薩さま

また、普賢菩薩さまには、別に寿命を伸ばして下さるといふ功德があります。

そうしたことから、すでに平安時代から、普通の普賢菩薩さまとは別に、普賢延命菩薩さまのお像が造られるようになり、このお像をご本尊として、延命を祈願するようになりました。

天台宗では、毎年四月はじめての七日間に「御修法」という秘法を修しますが、五箇あるその秘法の一つにも、この「普賢延命大法」が加えられています。

この御修法という法会は、天台座主猊下をはじめ、各門跡寺院の御門主さまや全国各地の高僧方が集まって、天皇陛下の玉躰、安穩と国家の隆昌、五穀の豊穰、万民豊楽などを、一日三座七日間にわたって祈る行事で、平安時代からという古い歴史と伝統をもつ、天台宗の大切な法会として今日まで承継がられています。

# 公益社団法人日本仏教婦人連盟 第12回総会開かれる

2024年5月31日(金)台風崩れの雨の中、第12回総会が浄土真宗本願寺派築地本願寺様において開催されました。先ずは各自でご本堂をお参りし歴史ある講堂にて、宗務長中尾史峰様の御導師のもと勤行、ご挨拶を頂きました。その後、第一伝道会館「振風道場」に移動し、落ち着いた雰囲気の中で日本料理「紫水」の精進料理を頂きました。

食事後本堂に移動、毎月最終金曜日に開催されるパイプオルガンランチタイムコンサートがあり、開始前には荒木由未師(本願寺派布教師)から仏さまのお話がありました。続いて声楽家安藤常光師、オルガン演奏者新山恵理氏、築地本願寺楽友会そしてコア・リヒトの方々の混声合唱を聞き、とても爽やかな気持ちになり、本堂においてパイプオルガンの演奏が聴けまし

た事に変感動いたしました。

コンサート終了後、講堂に移動し宗務長中尾史峰様からご法話をいただきました。4月末の築地本願寺様の大法要の4日間で3万人以上の方の御参りがあつたそうです。西本願寺(大谷家)にお生まれになり、仏教婦人会を創設された九条武子様のお話をされました。イギリスロンドンでの生活の中、ヨーロッパの女性達を見て「日本の女性もすっかりとした教育を受けた方がいいのでは」と考え、京都女子専門学校(現在の京都女子学園・京都女子大学)を設立されました。今年、築地本願寺が実施したアンケートの結果によると、20代から30代の女性には仏教またはお寺に対して否定的な方が多かつたそうです。若い方々に仏教の大切さを働きかけることの大切さと「自身の命・他者の命の尊さ」を語られました。

大いなるものちからに ひかれゆくわが足あと  
おぼつかなしや 『無憂華』

九条武子様は歌の中にあらわしてくださった「大いなるもの」とは、無力で、か弱い一人ひとりを見捨ててはおけないとお慈悲のお心で支えてくださる阿弥陀如来のことです。九条武子様の歌碑は正門の右手の所にあります。

ご法話後、梨本副理事長の司会で会員出席17名、112通の委任状提出により総会の成立が宣言されました。議長、議事録署名人の選出に続き、桶屋理事より2023年度事業報告、米田理事より決算報告、高崎監事より監査報告があり、本多議長から採決が行われ承認されました。続いて湯浅理事より2024年度事業計画、遠賀理

事より収支予算の報告がされました。

花岡理事長より皆様からお預かりいたしました能登半島地震支援金につきましては、子ども達に豊かな地球をつなぐキャンペーン三団体事業のため、全日本仏教会の救済基金、被災地NGO協働センターの現地活動支援費として送金しましたとの報告がされました。

最後に、新会員3名のご紹介後、議長から閉会の挨拶がありました。

雨も上がり、とても気持ちのいい日になりました。宗務長中尾史峰様はじめ皆様様のおかげをもちまして、第12回総会が無事終了出来ました事感謝申し上げます。ありがとうございます

合掌 (花岡眞理子)



1. 声楽家安藤常光師、オルガン演奏者新山恵理氏、築地本願寺楽友会そしてコア・リヒトの方々の混声合唱  
2. 中尾史峰宗務長  
3. 総会の様子



Reports of Cultural lectures



# 文化講座報告

知識や教養だけではなく、実のある生き方を教示された

“仏さまの智慧”を学ぶことを目指し、

様々なジャンルの講師の方を招いて開催している文化講座です。



令和六年、初めての文化講座に参加しました。  
異色の経歴をお持ちのペレラ雅子師を丸山師が御紹介され、スリランカが戦後の日本を救って下さったことなどを御説明して下さいました。  
静かにご御自分の歩みをお話し出されました。  
浄土真宗の後継者として生まれ、縁あってスリランカの外交官であったペレラ氏と結婚、(外交官の異国人との結婚は認められず三年かかった由) 世界各国での生活を始め、昨年二十五歳に駐日大使夫人として帰国なされました。  
その間での生活を通しての心の動き、一番楽しかったイタリヤ大使夫人としての活動の中で「自

第127回文化講座

## 「幸せについて」

1月29日(月) 午後2時～

【講師】ペレラ雅子師

【場所】本山東本願寺



第128回文化講座

## 牛久大仏参拝

3月11日(月)

【場所】牛久大仏  
あみプレミアム・アウトレット



浄土真宗東本願寺派本山東本願寺により30年前に建立された牛久大仏に参拝させていただきました。今回は先に起こった能登半島地震の物故者の追悼法要と世界平和を願う法要と文化講座を兼ねて執り行なわれました。当日は晴天に恵まれ30名のご参加があり、浅草の本山東本願寺を出発した貸し切りバスでの研修でした。  
車中、今回御導師をお勤めいただいた本山参与の妙清寺住職の説

かと述べられました。  
9月27日開催の第131回文化講座では、今回の内容を進展させた神仁師によるグリーンケアのワークショップを開催いたします。



4月19日、台東区谷中の天王寺にて第129回文化講座が開催されました。「能登半島地震被災者支援のあり方〜トラウマ&グリーンケアについて〜」と題し、全国青少年教化協議会の神仁師に今の能登半島地震の状況、そして被災者へのグリーンケアや支援の必要性について講義していただきました。

## 第129回文化講座 能登半島地震被災者支援のあり方〜 トラウマ&グリーンケアについて〜

4月19日(金) 午後2時～

【講師】神仁師

【場所】谷中天王寺

東日本大震災での被災地支援活動、子供たちを招待したサマーキャンプ、ハーブティを振る舞う移動式カフェや傾聴活動などを時系列で説明されました。活動の中で被災者自身が被災者支援をすることの難しさを感じたそうです。被災者支援に取り組んでいただく住職が心の病を発症し、のちに亡くなられたケースを紹介し、被災後初期段階は、必ず外部の人間が支援をしないといけないと語られました。時間が経過し回復してくると、被災者自身が支援をすることでもたさらに回復し、前へ進めるようになってくること。  
トラウマ(心的外傷)とは自分と世界への信頼感からの断絶、日常生活を可能にする「まあ、なんとかなるだろう」という感覚が損なわれることだそうです。トラウマからの回復には多くのプロセスがあり、第三者が被災者と寄り添い、伴走者として支援をすることが必要と説かれました。身近な人の寄り添いがあることでレジリエンス(回復力・復元力)が高くなるようで、これからの支援では身近な人だけでなく、私たち宗教学者が伴走者として寄り添って行くことが望まれるのではない

明を受け、大仏到着後は待ち受けていた妙清寺副住職に施設を案内説明していただきました。牛久大仏は施設全体に浄土真宗の教義が散りばめられているので、そこに備わっているそのものの意義が深く感じとられ、世界一を誇る大仏様の立派で偉大なお姿に皆様感動されておられました。  
大仏御胎内の蓮華蔵世界において、東本願寺様御導師のもと天災、人災などで尊い命を失われた物故者追悼と世界平和を念じる法要が執り行なわれました。引き続き本多住職より「洗除心垢」について文化講座としての法話がありました。  
大仏を後にし牛久シャトーでフレンチの昼食をすませ、あみプレミアム・アウトレットに立ち寄り帰路につきました。  
車中、皆様で歌ったり和やかに過ごし、まさに心の垢が取れたような意義深い文化講座でした。

本多端子

# 子育てにおける 親と子 との関係

しながらの  
感謝の言葉の集り



公益社団法人  
日本仏教保育協会 理事長

高山久照

子育ての際に  
問題に直面した時  
自分を  
責める必要はない

子育ては親にとってもとても楽しいものです。多くの喜びを感じる一方で、思うようにいかないこともあり、苦しさを感じることもあります。苦しさの原因は様々で、親自身が育った環境や受けた教育によって、事象に対する受け止め方や対応は人それぞれです。

子育ての苦労をある母親はこのように語っています。「子育て中は時間に追われたり、周りの人のひとことで一気に落ち込んだり苛立ったり感情が左右する。とくに子育て以外に気になっていることがある時は余裕がなく感情的になった」

「優先順位が仕事や自分という夫。優先順位が子どもで、自分のことは最後の最後という私。夫とのスタンスの違いが辛かった」。子育ての困難に出会った時には、自分の心の中に「つらい」「私の苦労を誰も理解してくれない」という閉塞感を伴う気持ちが生じ、そのようなことを考える自分にやりきれない感情を持つものです。子育ては子を持った親が誰しも経験することとで、「できて当たり前」という周

囲の目が気になり、自分だけが弱さを見せられないと感じてしまうからです。特にコロナ禍において妊娠、出産、子育てを経験した母親はマスコミやインターネットなどの過剰な情報に左右され、大きな不安を持ち、少なからず心にダメージを受けたことと思います。

子育ての際、問題に直面したときに孤立してしまう場合があります。しかし、困難を感じている自分を責める必要はありません。誰にとっても共感しあえる人間関係が必ずあり、その関係性の中で多くのことは乗り越えられるものです。一方「自分は自立している存在だから他に依存する必要はない」、という考え方は表面的な人間関係を作り出し、自己中心的な思考の原因となりかねません。自分は知ら

## 「子どもの伸びる力」を信じる

ないうちに周りの人に依存しているかもしれないという想像力を持ち、困難にあたり、心が傷ついたりしたときに、救いを求めれば応じてくれる人間関係があることはとても重要です。もしもの時に「いつでも相談できる」という場を持つだけで立ち直れる場合もあります。また、自分が辛かったことを語ることが、逆に相手立ち直るきっかけとなる場合もあるのです。人は依存しあう存在だからこそ、日頃から互いの立場や心情を尊重し、感謝の気持ちを持って豊かな関係性を築くことが大切なのです。

子育てで陥りやすいのは、自分の思い通りに育てようとする事です。そして、親の期待に沿わない子どもの言動や行動を受け止め

子どもには  
一度や二度ではなく  
何度でも繰り返し  
伝えることが必要

きれず、つい感情的になり、行動を否定し、叱ってしまうというものです。言葉を発することが少ない乳幼児期は、なかなか気づきにくいのですが、子どもは立派な人格を持った存在でもあります。親である自分とは違う人格が存在するという感覚は、子育てにおいてもとても大切だと思います。子どもの為を思っていることであっても、一方的に叱ることは効果が少ないばかりか子どもの自己肯定感を失わせ、結果的に解決までに余計な時間がかかってしまいます。また、叱った後は親自身にとっても決して心穏やかなものではありません。言われたように行動できない子どもの代弁をすれば「ちよっとまって、いろいろなことをためしているの。もうすこししたらじぶんできるよ」といったところでしょうか。すぐにはできなくても慌てず見守り、できた時には

すかさず褒めることがポイントです。優しく言うて聞かせることも、一度や二度ではなく何度でも繰り返すことが必要で、我慢比べだと思ってしまう。子どもは周囲のやりとりや遊びを通して成長していきます。その姿を見ることが私たち大人に幸福感を与えてくれるものです。できないことをなじるのではなく、常に「子どもの伸びる力」を心から信じ、子どもと向き合っ

てほしいと思います。

子育ての目的は生涯にわたる生活の基盤、人間関係の基盤、ソーシャルスキルの基盤、人格形成の基盤などを培うことです。乳幼児期の人間関係や体験が後の行動傾向を形成すると

言われます。親子においては互いの危機を乗り越えていく力を養っていく関係でもあ

ります。言うまでもなく、この親子関係は一生を通じてそれぞれの生き方に大きな影響を与えるものです。

人生100年時代といわれる今、子育てに関わる全ての者にとって、生きることの喜びを実感できる豊かな時間（ウェルビーイングの実現）とは何か、を問い直すことが求められています。誰もが生かされている存在、ご縁によりつながっている存在であることを自覚し、互いの幸福を喜び合える関係性を大切にしたい





# 印度山日本寺 開山50周年 記念式典



2023年12月6日、7日、  
インドビハール州ブダガヤ印度山日本寺  
において総勢150人の参加者で  
日本寺開山50周年、成道会、  
菩提樹学園45周年、光明施療院40周年、  
仏教学東洋学研究所図書館落成、  
記念式典が開催されました。  
全日本仏教婦人連盟主催のツアーには  
23人が参加しました。



の記念法要が厳粛に勤められま  
したが、日本から持参した千四百巻の  
お写経が祭壇中央に供えられる光景  
に、何とも言えない思いが込  
み上げてくるのを感じました。  
法要後 境内の宝篋印塔において、  
念法真教、全日本仏教婦人連盟の順  
でお勤めが行われました。  
このたび念法真教から八名が参加  
させていただきましたが、皆様の思  
いがもった大切なお写経を無事に  
印度山日本寺まで運び、丁寧に奉納  
することができました。一同、大役  
を果たしてホッと胸を撫で下ろすと  
ともに、このような機会を与えてい  
ただけたことに対し、関係者の皆様  
に心から感謝申し上げます。

## 光明施療院を 訪ねて

全日本仏教婦人連盟  
副会長 加用稔子

四十年前、ブダガヤ日本寺の境内  
に、全日本仏教婦人連盟が無料の診  
療所を建設し、「光明施療院」と名



付きました。その名は仏教の慈悲の  
心で慈善活動をされた「光明皇后」  
様に由来するものです。  
菩提樹学園の園児やそのご家族の  
診療をしておりましたが、無料で  
あるということから、遠方からも多  
くの方々が歩いて来られるようにな  
り、一日に三百人ももの患者の列がで  
きたようです。  
この様に長い間、重要な役割を果  
たしてきた光明施療院でしたが、近  
年のインドの社会変化により、創立  
当初から必要とされていた無料の診  
療活動が出来なくなりました。  
今では園の子供達の怪我や発熱な

## 写経奉納報告

念法真教 七條芳海

私たち二十名のツアー一行が  
ブダガヤに足を踏み入れたのは、  
十二月五日夕刻のこと。約一キロの  
道のりを歩いて釈尊悟りの地に到着  
した時、辺りはすでに暗くなり始め  
ていました。読経の音が響く中、夕  
闇に燦然と輝く大菩提寺の勇壮な  
姿。仏教徒にとって聖地であるその  
場所に身を置いていると、魂が揺さ  
ぶられる、そんな気持ちになりました。

翌朝、再び大菩提寺を訪ね、菩提  
樹の下に全ツアー百五十名の参加  
者が集い、日本人の仏教徒によるお  
勤めが行われました。袈裟ではな  
く私服での参加者が多い集団の勤  
行は、各国からの巡礼者の目には  
異様に映ったのかもしれませんが、  
私たちにとってはとても意義あるこ  
とでした。

印度山日本寺では、開山五十周年

どへの応急処置や、栄養・保健面の  
ケア等をなさっておられます。  
創立四十周年記念式典の後、設立  
プロジェクトに深い関りを頂いた全  
日本仏教婦人連盟の元名誉会長で善  
光寺大本願先代の一徳智光台下がご  
揮毫下さいました「光明施療院」の  
立派な看板を掲げた建物を目にした  
ときは、我々の諸先輩方の社会福  
祉への崇高な思い、実行力に只々感  
謝の気持ちでいっぱいのごさしまし  
た。  
今後この尊い事業を末永く継  
続していかなければならないと心に深く  
刻みました。







3歳児の踊り

菩提樹学園の子どもたち



仏婦からのプレゼント

本多端子

そして別の目的である、世界仏教徒会議本部のパロップ会長を尊敬訪問いたしました。会長はじめ本部の方々に大歓迎をうけタイのお茶とお菓子を頂戴いたし、会合を持ち、仏教を通じ和合する共通理念を共有し世界平和に協力しあうことを確認いたしました。旅立つ前は気候、食事や治安等不安でしたが大過なく、とても有意義で楽しいインド、タイの旅行でした。

はじめての  
インドブッダガヤの旅  
米田良順

令和5年12月にインドブッダガヤで行なわれた印度山日本寺開山五十年記念式典法要に参加させていただきました。諸事情により関西空港から往復ともに私一人という旅路で些か不安でしたが、インドに到着してからは皆さまに大変良くしていただきました。食事中も話が弾みとても楽しい旅になりました。

このたび成道会法要が厳修されましたブッダガヤのマハーボディ寺院(大菩提寺)は、お釈迦様がこの地の菩提樹のもとで悟りを得られたと伝わることから、仏教にとっては勿論、人類の歴史上最も重要な聖地のひとつであり、世界文化遺産に登録されています。

マハーボディ寺院の境内に入るには先ずスマホやカメラ類を預けゲートを通り、靴を脱ぎ素足になり進んでいきます。境内は真っ直ぐ歩くことさえままならない程多くの人々であふれかえり、参道や庭園間



わず至る所で菩提樹のある中心に向い、各国の仏教徒たちが様々な言語で経を読み、投地礼を行なっています。敬虔な祈りを捧げる人々の姿に、訪れた者は誰しも聖地であることを感じざるを得ません。

ブッダガヤの町には「印度山日本寺」という寺院があり、日本仏教界宗派を超えて護持されています。境内には仏教学書をはじめとした「図書館」や医療施設である「光明施療院」が併設され、また幼児保育施設である「菩提樹学園」も運営されています。法要当日は菩提樹学園の遊戯会の日でもあり、目をキラキラさせた子どもたちが一生懸命に可愛らしいダンスや演劇など、日々の練習成果を披露し親御さんや我々を笑

顔にしてくれました。

ご存じの通りインドは古代からのカースト制度が、今も社会に根深く残っています。言わば生まれながらにして決定された乗り換えることのできない固有の身分制度です。マハーボディ寺院近辺では、赤子を抱っこした汚れた顔の小さな女の子、ボロボロの服に裸足でついでる少年、道路の端で臥せる老人など、手を差し出して物乞いをする老若男女の姿を目の当たりにしました。幼児保育施設「菩提樹学園」に通う子どもたちは毎日食事をすることも難しい貧困層であり、日本からの寄付により無償で保育・教育・給食を提供しているのだそうです。

インドの現在の法律ではカースト制度を理由にした差別を禁じていますが、古代から深く根付いた制度を社会の仕組みから無くすことができていないのが現状です。現在インドの人口の約80%がヒンドゥー教であり、次いでイスラム教が14%程度、仏教は少数で僅か0.7%だと言われています。お釈迦様は生きとし生けるものすべての命は平等であると説きカースト制度を否定さ

れました。この仏教の根本である平等思想に、実はインドには数字に表れない仏教徒がかなりいるのだと聞きしました。だからこそ多くの方々がマハーボディ寺院に祈り続けていたのです。

日本仏教界が行なっている菩提樹学園や光明施療院、図書館といった支援は、広いインドのほんの一部の小さな小さな事かもしれない。しかし子どもたちが様々な学びや経験を通じて知識を増やすことにより、自ら考え行動するきっかけとなります。この一筋の光は更に国内外に広がっていくことでしょう。多くの方々が見え、お釈迦様の目指した平等思想。印度山日本寺で行っている支援は、遠回りのようですがインドの未来に繋がる唯一の平和的な方法と言って過言ではないと感じました。

この度のインドブッダガヤの旅を通じて、文化や社会を実際に目で見て触れて空気を感ずる貴重な経験と共に、仏教の本来のあり方を考えさせられる有意義な時間を過ごさせていただきました。誠に有り難うございました。

今

回のインド日本寺、菩提樹学園ならびに光明施療院の記念式典に際し、微笑みの国タイのバンコクも合わせて訪問いたしました。

バンコクは川を交通や交易の中心として栄えたタイの都市らしく、重要なスポットは川沿いにたてられ水辺も街並みも特有で立派で煌びやかな寺院が点在しております。世界遺産アユタヤ仏教遺跡を見学し南国特有の仏教文化を体感させていただきました。

花の種運動

平成16年に始めた花の種運動は、すでに22年になり「思いやりの気持ち」から「水は宝物」そして「海はひとつ」と子供たちの未来のためのテーマに繋がれ、リーフレットに会員の手作業で花の種を付けて、皆様のお手元に届けております。参拝の方、幼稚園での配布、花まつり法要時の時にお配りしています等々、花の種について御礼やご意見等が毎年届いております。一部紹介させていただき次回の参考にさせていただきます。貴重なご意見をありがとうございます。



「花の種」は職員から大変好評であると聞いております。いつも素敵なお品をお送りくださりましてありがとうございます。(宗務庁)

幼稚園の卒園、入園の時期に、親子で花植えをした事が話題になったり、お彼岸お参りやその前にお掃除に来られた方々も楽しみにされています。地球環境に意識が向く活動に感謝申し上げます。(幼稚園)

総会の折に会員の皆様にお分けしています。毎回どんな花が来るかたのしみで、心待ちにしておられるようです。(婦人会)

いつもありがとうございます。毎年さまさまにお配りし皆さま方の楽しみのひとつとさせていただきます。各地に拡がり少しでも皆が穏やかな日々を迎えることができますよう心より御祈念申し上げます。ホチキスは必要でしょうか。いただく側としてはリーフレットに挟むだけでも良いように思います……。 (ホチキスは金属、はずして種は使いますので。)



周りに自然を感じさせるものが、ほとんどなくその一筋の光が花かなと思っております。大切に配らせていただきます。心を込めたホチキス止め、ありがとうございます。(子ども会)

年により種類も少し違い選んでいただくこともでき笑顔でお持ち帰り頂いております。咲いた報告もいただきます、風船かずらは通学中の子ども(小学生)達に大人気ですとお隣様がよるこんでいました。早速1袋お持ちしました。

Letters from scholarship students

あおぞら奨学基金



皆様のあたたかいご支援が  
こんなにも役立っています!

私の将来の夢

女子

私を3年間支援して下さいましたサポーター様、誠に感謝しております。ありがとうございました。私は今まで将来の夢がはっきり決まっていなかった。しかし、高校生活を3年間営んでいくうちに「人を助ける仕事になりたい」「誰にも話せずに悩んでいる人の心の支えになりたい」という思いから臨床心理士になりたいと考えるようになりました。年々、日本の自殺者の数は増加しています。動機は様々ですが大半の方は相談ができる人がいない、自分の味方は誰もいない、誰も苦しみを分かってくれないなどと孤独を感じているようです。私はそんな孤独を感じている人の希望や助けになりたいと思っています。私が心理の道に進もうと決意した実際の出来事があります。私は元々、あまり人付き合いが上手ではありませんでした。部活動での人間関係が上手くいかず、退部してしまいました。私は明るい性格だと周りから思われていたのですがそのイメージを壊したくなく、友達にも先生にも相談できませんでした。そんな時、私の異変に気づいて話しかけてくれたのが保健室の先生でした。私は全てを話した時は泣いたこともあります。それでも保健室の先生は寄り添っていてくれました。全てを話すと心も身体もすっきりしてまた教室で明るく話をする事ができるようになりました。そこで私は話を聞いてもらえるとこんなに違うのかと思ひ、心理のことに興味が出てきました。決して楽な仕事ではありませんが、少しでも人の役に立てよう高校生生活で学んだことを糧に、大学生活を楽しみたいと思います。最後になりますが、3年間本当にありがとうございました。

感謝の気持ち

男子

拝啓 春寒の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。おかげ様で私ももうすぐ高校を卒業します。3年間続けてきたバスケットボール部は部員数の減少で他校との合同チームとして活動してきました。つらくてやめたい時もありましたが最後まで頑張り、引退することができました。また1年生からやっていた生徒会会計の仕事も高校生になって初めての事だったので最初は何をやっていいかわかりませんでした。ですが、先輩方や先生方に色々教えてもらいながらすすめ、無事後輩に引き継ぐことができました。公開文化祭や球技大会等、様々な学校行事があり忙しい時もありましたが最後までやり終えました。今は、残り少ない高校生活を全力で取り組んでいきます。私は就職希望でしたので去年の夏は進路活動に専念してきました。勉強や面接練習や履歴書を、合格したいという気持ちで行って来ました。私の気持ちが叶ったのか無事に内定をいただくことができました。でも卒業しなければ意味がないので、そのあとも気を緩めず最後の学年末考査に向けてテスト勉強をがんばっています。また、スーツやくつの購入などこれからの就職準備のために奨学基金を使わせていただきます。今、もう少しで卒業できるのは家族や学校の先生はもちろんですがあおぞら奨学基金サポーター様のおかげです。高校卒業後も、社会人として精一杯がんばっていきたいと思います。 敬具

## 入会へのおすすめ

2013年4月より公益法人としてスタートいたしました。

私たちは、仏教精神によって組織されている各種の仏教団体と連携しながら、全ての人が国家や民族、宗教、言語、文化の違いを超えて共生し、人々の尊厳が実現するよう、婦人の立場から社会および家庭生活に寛容精神を培い、国内外の福祉向上に寄与することを目的としております。

ぜひ会員として、目的達成のために活動を共にし、ご協力をお願いいたしたく入会のおすすめを申し上げます。

### 1、会費、入会金を添えて申込書にご記入の上お申し込み下さい。

会員の種類	年会費	入会金
① 正会員（個人）	10,000円	5,000円
② 維持会員 （正会員で別途維持会費を納めた会員）	40,000円	5,000円
③ 団体・法人会員	50,000円	5,000円
④ 賛助会員	50,000円（1口以上）	

### 2、会員の特典

会員に対しては連盟が開催する各種の会合及び事業のご案内をいたします。

イ、各協力団体への研修会等参加及び協賛。

ロ、古寺めぐり等文化事業に参加。

ハ、機関誌「全佛婦」「沙羅の樹」の送付。

ニ、社会福祉事業（救援事業・被災地支援等）。

ホ、「子どもたちの未来のために」（環境・教育問題）。

### 3、詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-10

☎ 03 (5772) 0677    🌐 <http://jbwf.jp>

## お写経のすすめ

Shakyo no Susume

お写経は、仏教の經典の文字を一字一字、丁寧に書写すること、心身を清める修行として、大きな功德があります。經典は、お釈迦様のありがたい教えをまとめたものなので、お写経を繰り返すことでその意味を感じ取りながら仏教の教えを学ぶことができます。お写経とは本来、徳を積むための行為であり、見返りを求めて行うものではありませんが、お写経を始めるきっかけとして、まずはどんな効果があるか知りましょう。



現代の医学的見地からみても、写経や読経が自己の治癒力を高める効果をもたらすということが分かっています。一つのことに意識を集中させることによって、神経系統、特に大脳の働きが整理されて、からだ全体がバランスよく保たれます。そして各器官が活発化してくるのです。

最近では大学などの研究で、写経は字を書くという指先を使う作業のため、脳を活性化することに効果があり、認知症の予防を目的に高齢者用のリハビリプログラムとして有効であることが証明されました。多感な青少年、また高齢者のためまで幅広く効用があることが、いま科学的にも注目されています。

## お写経の効果

1. 指先を使うことで、脳を活性化させることができます
2. 姿勢がよくなり、心と体が落ち着いてきます
3. 自然の治癒力が向上します
4. 集中力と忍耐力がついてきます
5. 字が上手になります
6. イライラを解消し、疲労回復がはかれます
7. 心が清浄になり、安心の境地が得られます

### 問合せ先

(公社)全日本仏教婦人連盟

☎ 151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

【TEL】 03-5772-0677

【FAX】 03-6434-0184

【URL】 <http://jbwf.jp>

【MAIL】 [info@jbwf.jp](mailto:info@jbwf.jp)

般若心経

舎利礼文

十句観音経

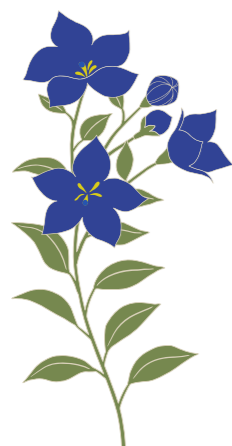
写経用紙は上記の三種類を用意しております。必要枚数をお申し込みください。（ホームページからも印刷できます。）

- お写経はインド・ブッダガヤの「インド山日本寺」の宝篋印塔にお納めします。
- 奉納金は一巻につき般若心経1000円、舎利礼文・十句観音経各500円をお願いいたします。
- お納めいただいた奉納金は、日本寺境内にあります光明施療院において、ガヤ地区の医療活動から子供たちと保護者への健康、保険指導へと活用させていただきます。

- 4日 (公財) 全国青少年教化協議会齋藤昭俊代表理事本葬儀参列(栃木市・寶蓮寺)
- 6月 June
- 10日 監査会(事務局)
- 13日 第35回理事会(代々木会議室)
- 31日 第12回総会(浄土真宗本願寺派築地本願寺)
- 5月 May
- 1日 「沙羅の樹」19号発行
- 3日 花まつり法要(雑司ヶ谷鬼子母神堂)
- 8日 京都仏教会花まつり(ANAクラウン京都ホテル)
- 19日 第1回運営委員会(天王寺)
- 26日 129回文化講座(天王寺)
- 26日 仏法興隆花まつり千僧法要(奈良東大寺)
- 4月 April

仏婦 NEWS抄  
私たちの日々のあゆみ  
2024年4月~7月

- 13日 第130回文化講座(中宮寺門跡 法隆寺 元興寺)
- 18日 印度山日本寺開山50周年・菩提樹学園創立45周年・光明施療院40周年記念式典(ホテルグランヴィア京都)
- 19日 (公財)全日本仏教会第43回理事会(ウエスティンホテル京都)
- 24日 (公財)国際仏教興隆協会第17回評議員会・第38回理事會(会議室・オンライン会議)
- 26日 第12回子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン会議(仏教伝道協会ビル)
- 27日 (公財)日本宗教連盟評議員会(オンライン会議)
- 7月 July
- 3日 第2回運営委員会(東京プリンスホテル)
- 10日 全佛婦139号発行



information

- 7月10日(水) 「全佛婦」139号発行
- 8月4日(日) 比叡山宗教サミット37周年「世界宗教者平和の祈りの集い」
- 10月1日(火) 「沙羅の樹」20号
- 10月30日(水) 第71回全日本仏教婦人連盟大会  
会場：東京プリンスホテル「マグノリアホール」
- 12月4日(水) 第36回成道会の集い  
会場：有楽町マリオン朝日ホール

第131回文化講座

日時：令和6年9月27日(金)  
13:30~15:30  
講師：神 仁師  
会場：谷中天王寺  
\*詳細は順次ご案内いたします



第130回文化講座  
奈良仏教セミナー  
(中宮寺門跡、法隆寺、元興寺)

6月13日(木)に32名の参加者と京都からバスにて奈良の3ヶ寺でのセミナーが無事終了しました。各御寺院様には大変お世話になりありがとうございました。報告は沙羅の樹20号(10月発行)にて掲載予定です。



あおぞら奨学基金サポーター様



前略 私は日本で受けたすべての経済的支援に感謝の気持ちを込めてこの手紙を書いています。日本に2年間滞在できたことにとっても感謝しています。アジアの様々な国の人々と出会い、自分の人生において多くのことを見つめ直すことができ、忘れられない経験となりました。また、学園生活と石川県での生活を通じて、日本文化とその繊細さやニュアンスをより深く知ることができました。このような機会をいただき、ありがとうございました。私がこの度、高校の途中で日本を出国する理由は、ノルウェーで子供のイラストを勉強をするというオファーを受けたからです。子供向けのイラストを描くのが長年の夢だったので、断ることができませんでした。結局の

ところ、私にとっては夢を追うことが第一です。また、家族の滞在するドイツの状況は悪化しているため、私は家族をサポートしていく必要があります。私の仕事は、生活を整えることに加えて、母と弟と妹が新しい住居を見つけて新しい国に適応するのを手伝えることも必要です。私は日本が私に与えてくれたすべてのものにとっても感謝しており、いつか私の人生の道が再びこの素晴らしい魅力的な国と交わることを願っています。サポーターの皆様におかれましては、どうぞお身体に気をつけてお元気でいらっしゃること、またお幸せにお過ごしくださることを願っています。本当にありがとうございました。早々(ウクライナから避難されたマリアさんより)

事務局 だより



全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの活動に運用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いたします。(順不同・敬称略6月20日現在)

- ▼賛助金にご協力の方々  
曹洞宗 真言宗豊山派  
念法真教 浄土真宗東本願寺派  
天台宗 日蓮宗 築地本願寺  
真言宗須磨寺派  
真言宗大覚寺派 真宗木辺派  
法華宗陣門流 総本山知恩院  
青蓮院門跡 三千院門跡  
日光山輪王寺 中宮寺門跡  
圓照寺門跡  
大本山川崎大師平間寺  
高幡不動尊金剛寺  
大本山護国寺 聖観音宗浅草寺  
大本山善光寺大本願  
大本山永平寺 大本山總持寺  
大本山池上本門寺
- ▼芳志を頂きました方々  
三佛寺 花岡眞理子 本多端子  
米田陽子 桶屋良法 湯浅正江  
日比野郁皓 大橋百合子  
本多昭子 木田正子
- ▼写経運動にご協力の方々  
村上和之 高橋節子 末廣久美  
大橋百合子 大橋聡衣  
栃澤元子 猪瀬三枝子  
浜野福貴子 田中美恵子  
手塚せい子 五月女恵子  
春山葉子 折笠良子 山岸春江  
市川千恵子 野沢喜代恵  
小峰立丸
- ▼花の種運動にご協力の方々

- 本山大坊本行寺 孝道教団
- 天王寺 總持寺 上品蓮台寺
- 妙清寺 慈眼寺 梅窓院
- 回向院 光明院 妙慶院
- 大聖院 長專院 傳通院
- 竹林寺 淨眞寺 満願寺
- 東園寺 龍光寺 深大寺
- 清岸寺 高岩寺
- 妙安寺 (公財) 仏教伝道協会
- (二財) 京都仏教会
- 静岡県仏教会
- 弁護士柴田龍太郎
- (株) 経営総合研究所

